

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、住宅・建築投資の落ち込みなどからテンポが鈍化しているものの、基調として回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。一方、住宅投資は減少を続けているほか、公共投資は基調としては低調に推移している。こうした中、改正建築基準法の施行や原油・原材料高の影響もあって、地場企業の景況感は慎重化しているほか、企業収益も足もとでは減益見込みにある。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費をみると、引き続き底堅く推移している。

すなわち、11月の販売動向をみると、百貨店売上高は、食料品が堅調であったものの、衣料品が重衣料を中心に不冴えであったほか、身の回り品も落ち込んだため、前年比マイナス幅が拡大した。スーパー売上高は引き続き生活用品が苦戦したほか、冬物衣料にも動意がみられなかったものの、食料品が堅調であったため、前年比マイナス幅を縮小させた。

また、乗用車販売では、普通車が新型車投入により増加しているものの、軽自動車と小型車の販売が引き続き減少したため、全体では12か月連続で前年を下回った。この間、家電販売は、エアコンが好調に推移したものの、大型店との競争の激化などから、前年を下回っている。

このほか、旅行取扱高は、国内旅行が個人を中心に伸び悩んだほか、海外旅行も不振であったため、前年を下回った。一方、主要観光地への入り込みは、天候に恵まれたこともあって、多くの施設で前年を上回った。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(12月短観調査)をみると、非製造業では小売を中心に減少計画にある(前年比 4.2%)ものの、製造業では、化学(競争力強化、能力増強)、鉄鋼、石油・石炭製品(能力増強)などの素材業種を中心に大幅な増加計画となっている(同+25.5%)。この結果、全産業ベースでは、1割を超える増加計画となっている(同+14.7%)。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、改正建築基準法施行の影響もあって、足もとでは前年を大きく下回っている(前年比:19/7~9月 44.3% 10月 58.0%)。

(3) 住宅投資

県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、改正建築基準法施行の影響などから、貸家やマンションを中心に減少を続けている(前年比:9月 20.1% 10月 16.3%)。

(4) 公共投資

公共投資は、基調としては低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、11月は、「市町村」、「その他の公共的団体」が前年を上回ったものの、「国」、「独立行政法人等」、「県」が前年を大幅に下回ったため、全体では2か月振りに前年を下回った(前年比:10月 +9.5% 11月 10.5%)。

(5) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、11月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア向けが化学、鉄鋼を中心に引き続き堅調に推移しているため、前年を上回った(前年比:10月 +16.4% 11月 +5.3%)。

(6) 生産・出荷・在庫

10月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、電子部品・デバイスで上昇したものの、窯業・土石、鉄鋼、繊維を中心に低下したことから、全体では3か月振りの低下となった(前年比:9月+0.4% 10月 1.3%)。

季調済前月比では、電気機械、鉄鋼、一般機械を中心に低下したことから、2か月連続の低下となった(季調済前月比:9月 0.2% 10月 2.1%)。

この間、在庫指数は、繊維、電気機械を中心に、5か月連続で前年を下回った(前年比:9月 2.0% 10月 5.7%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、輸出向けを中心に高操業を続けている。また、鉄鋼、石油化学は、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けているほか、石油精製は、一部の先で定期修理の影響が緩和されたため、生産水準は高めに復帰している。このほか、電気機械でも、液晶関連、携帯電話向け部品の受注が好調なため、高めの生産を続けており、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。この間、繊維では、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にあるほか、農機具では、末端需要が引き続き低迷するなか、一部の先で在庫調整を実施するなど、生産水準を一段と引き下げている。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い先では、残業などによる生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

労働需給面をみると、11月の有効求人倍率は、派遣求人などの受理厳正化の影響から低下した(10月1.45倍 11月1.32倍)ものの、なお高水準にある。一方、10月の所定外労働時間は、前年を下回って推移している(前年比:9月 16.5% 10月 13.5%)。雇用面をみると、10月の常用労働者数は、前年を下回った(前年比:9月 0.4% 10月 0.7%)。この間、11月の解雇者数は低めの水準となっているほか、雇用保険受給者数はほぼ横ばいとなっている。このように、県内の雇用関連指標は、足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、10月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った(前年比:9月 3.0% 10月 3.2%)。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

(8) 物 価

10月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)は、生鮮食品を除く食料、光熱・水道、住居などが前年を上回っているが、被服及び履物、保険医療などが前年を下回っているため、全体では前年を僅かに上回った(前年比:9月0.0% 10月+0.4%)。

(9) 企業倒産

11月の県内企業倒産(東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(23件<前年10件>)が前年を上回ったほか、負債総額(56億円<同9億円>)も、大型倒産の影響から前年を大幅に上回った。

3 . 金 融

(1) 実質預金

11月の県内実質預金をみると、公金預金が前年比マイナスとなったものの、個人預金および法人預金が前年比プラス幅を拡大したことから、実質預金全体の伸び率は上昇した(月中平残前年比:19/10月+1.8% 11月+2.2%)。

(2) 貸 出

11月の県内貸出をみると、個人向けは住宅ローンを中心に前年比プラス幅が拡大したものの、企業向けが設備資金を中心に伸び悩んだほか、地公体向けも前年比マイナスとなったため、貸出全体の伸び率は低下した(月中平残前年比:19/10月+1.3% 11月+1.0%)。

(3) 貸出約定平均金利

11月の新規貸出約定平均金利(総合ベース)は、2か月振りに前月比低下した。一方、ストック金利(同)は前月比上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111(代表)

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足もとの動向
自動車	輸出向け完成車を中心に、全体として高操業が続いている。 国内向け生産は、小型車は新型車の投入により持ち直しているものの、軽自動車は、販売台数の減少を受けて生産水準が低下している。一方、輸出向け生産は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、欧州向けも他社向け供給効果などから堅調に推移している。このほか、KDも新型車投入などから持ち直している。 この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
造船	豊富な受注残を背景に高操業が続いている。 大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業用機械の受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。 この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
石油精製	定期修理の影響が緩和され、原油処理量は高めに復帰している。 製品別にみると、ナフサは石化メーカー向けが堅調に推移していることから、高めの生産水準となっている。ガソリンは需要が弱含んでいる中、一部設備で定期修理が続いたため、生産水準は低下している。軽油は内需が底堅く推移しており、輸出向け需要も好調であるため、高めの生産水準となっている。灯油は、燃料転換の進捗もあって需要が弱含んでいるものの、需要期入りしているため、生産水準は高めとなっている。重油は、生産量が減少傾向にある。
石油化学	好調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。 製品別にみると、ポリエチレンは、需要が堅調に推移しているため、高めの生産となっている。塩ビ樹脂は、輸出向けを中心に、高水準の生産となっている。ポリスチレンは、需要が弱含んでいる汎用品から高付加価値品への生産シフトを進めている中、老朽化した川上製品の生産設備を一部停止しており、生産量は減少している。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。 製品別の動向をみると、薄板類は、高付加価値品を中心に需要が好調であり、全体としては高水準の生産を続けている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、一部に改正建築基準法施行の影響がみられるものの、全体としては、なお高めの生産水準となっている。棒鋼類は、建設向けの一部で改正建築基準法施行の影響がみられるものの、自動車向け需要が堅調なため、総してみれば高めの生産を続けている。
耐火物	大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。
電気機械	全体として、高めの生産を続けている。 製品別にみると、電子部品は、液晶関連や携帯電話向けを中心に受注が好調に推移しており、高水準の生産を続けている。スイッチも、携帯電話向けを中心に高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、新製品投入効果が一巡したため、生産量は減少している。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、ジーンズ、作業服は、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、海外拠点への生産シフトにより低調な生産が続いている。
工作機械	高操業が続いている。 NC旋盤は、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、輸出向けを主体に受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。 こうした状況下、繁忙度の高い生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。
農 機 具	生産水準を一段と引き下げている。 製品別にみると、コンバインは、末端需要が低迷しているため、一部の先では在庫調整を実施して、生産水準を一段と引き下げている。携帯用刈払機は、国内需要は引き続き低調に推移しているが、欧州向けを中心とした海外需要が増加しているため、足もと生産水準は持ち直しつつある。